

美術だより



心に深く感じ取る



美術の授業の中でも“鑑賞”の単元は「堅苦しい」、「つまらない」といったマイナスなイメージを抱く人も多いのではないのでしょうか。美術館などに展示されている作品は絵画に限りません。版画などの平面作品、仏像などの彫刻作品…。さらに、場所や空間全体を作品とする“インスタレーション”、映像をはじめとする“現代美術”と聞くと「何を表現しているか分からない」と思われるかもしれません。

2学期最初の授業、1年生は鑑賞の学習に取り組みました。今回の授業の目標は“感想を表現する言葉を知ろう”です。感じ方に正解はありませんが、作品から「どのような印象か」、「何をどう感じたか」を言葉にして共有することは、鑑賞をする上で大事な活動です。生徒はタブレットで作品の画像を拡大し、細部まで鑑賞することができました。

美術作品に限らず、感想を共有することは“感性”を伸ばすチャンスだと思います。

まずは…何色が使われているか、何が描かれているか、どんな材料を使い、どんな表現の仕方をしているかを分析すると良いわ♪



多岐にわたるアート

先日の朝日中高生新聞に、葉っぱを切り絵のように切って作品を制作しているアーティストの特集が掲載されていました。5月には本も出版されたそうです。SNSを見ると、コンセント横に造られたミニチュア、UVレジンを使ったアクセサリーなど様々な作品を目にします。今や、どんなアートが話題になるか分かりません。反対に、どんなものもアートになると言えるかもしれません。

そんな中、美術部では2学期から“ストリングアート”に挑戦しています。“ストリングアート”とは、木製の土台に釘を打ち、釘に糸を掛けて制作するものです。糸の掛け方に規則性をもたせると全体のバランスが良くなります。

土台となる板・釘(土台の厚みより長いもの)・金づち・糸さえ用意すれば作品が出来ます。興味がある人は是非調べてみてください！あなたの作品も話題になっちゃうかも…!?